

令和 5 年 6 月 8 日現在

機関番号：33921

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2021～2022

課題番号：21K19997

研究課題名（和文）武勇伝物実録の発展と受容に関する研究

研究課題名（英文）Research on the development and acceptance of 'Buyuuden mono Jitsuroku'

研究代表者

荻原 大地 (OGIHARA, Daichi)

愛知淑徳大学・文学部・助教

研究者番号：60907913

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、今まで先行研究がほとんどなかった高木折右衛門物実録・『女武勇集』・アヘン戦争物実録を研究対象とし、諸本調査と系統整理、具体的な内容分析、後世への受容実態の解明を行った。その結果、高木折右衛門物実録（『武道白石英』）の3種類のバリエーションの存在とその特徴、「女武勇」という概念とその特徴、近世実録におけるアヘン戦争描写の特徴などを明らかにできた。これらの成果によって、近世実録の基礎研究を進展させることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近世実録研究は2000年代に入ってから研究が本格化した新興のジャンルであり、諸本調査・系統整理・翻刻注解・周辺領域との比較検討といった基礎的研究さえ十分に行われていない。特に、本研究で研究対象とした作品はいずれも、どこにどのような本が現存しているのか、どのような内容を持つのか、後世にどのように受容されたのかなど、不明な部分が多い作品だった。本研究の成果によって、これらの疑問点はおおむね解消され、近世実録の基礎研究の充実に寄与することができた。

研究成果の概要（英文）：'Takagi Oriuemon mono Jitsuroku' and "Onna Buyuusyū", 'Opium War Jitsuroku' have had few prior studies. In this study, I investigated these works, organized their genealogies, analyzed their content specifically, and clarified their acceptance to posterity. As a result, I clarified the three variations of 'Takagi Oriuemon mono Jitsuroku' ("Budo Shirایشi no Hanabusa") and their characteristics, the concept of "Onna Buyuusyū" and its characteristics, and the characteristics of the depiction of 'Opium War Jitsuroku'. Through this study, I have been able to advance the basic research of 'Kinsei Jitsuroku'.

研究分野：日本近世文学

キーワード：近世実録 日本近世文学 高木折右衛門物実録 『武道白石英』 『女武勇集』 活字翻刻本 講談速記本

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

近世実録は江戸時代の有名な事件・人物を題材にした文学であり、近世期の文学作品のみならず、歌舞伎や講談といった芸能分野、明治期以降の大衆文芸に大きな影響を及ぼした。また、現代人が抱く江戸時代の事件に対するイメージも、少なからず近世実録の影響を受けている。このように、近世実録は日本文学史上、無視できない存在であり、年々関心が高まっている。

しかし、近世実録の研究は 2000 年代に入ってから研究が本格化した新興のジャンルであり、当該分野を専門とする研究者は、日本国内で 5 名程度に過ぎない。それゆえ、近世実録を研究する上で不可欠な諸本調査・系統整理・翻刻註解・周辺領域との比較検討といった基礎的研究は、いまだ十分に為されたとは言いがたい状況が続いている。特に、主人公の武勇伝をテーマとする武勇伝物実録については、各作品の諸本調査さえ行われていない状況である。そこで、本研究では武勇伝物実録に分類される作品に焦点を絞り、諸本調査と系統整理を行い、内容分析と後世の受容実態の解明を試みることにした。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、武勇伝物実録に該当する作品の検討を通じて、近世実録の基礎研究の充実を図ることである。具体的には、①研究対象とする近世実録作品の諸本調査と系統整理、②具体的な内容変化の分析、③後世への受容実態の解明を目的とする。

## 3. 研究の方法

研究方法としては、国文学研究資料館「新日本古典籍データベース」「日本古典籍総合目録データベース」、菊池庸介「主要実録書名一覧稿」(『近世実録の研究』汲古書院、2008年2月)を参照し、武勇伝を収めたと思われる作品群を抽出した。その上で、ある程度まとまった写本が残っており、かつ今まで先行研究での言及がほとんどない武勇伝物実録として、高木折右衛門物実録と『女武勇集』の一群を選定し、諸本調査と系統整理、内容分析と後世の受容実態の検討を行った。

## 4. 研究成果

本研究の研究成果は、(1) 高木折右衛門物実録に関する成果、(2) 『女武勇集』に関する成果、(3) アヘン戦争物実録に関する成果の 3 つに大別できる。以下、それぞれの成果について記述する。

### (1) 高木折右衛門物実録に関する成果

近世期の武人高木折右衛門を主人公とする近世実録『武道白石英』について、その諸本と内容変化を明らかにした。具体的には、折右衛門の武勇伝と後継者虎之丞との旅を描くもの(『武道白石英』)、これに虎之丞の武勇伝を描く物語を増補したもの(同後編)、前述 2 つの物語に虎之丞の子の武勇伝を増補したもの(同三編)という 3 種類のバリエーションがあることを明らかにした。研究開始当初、『武道白石英』に関する先行研究は杉田美登「読本『武道白石英』」が唯一であり、本作が読本ではなく近世実録に分類されることや、同作に複数のバリエーションがあることは今まで知られていなかった。本研究によって、高木折右衛門物実録の基礎研究は大きく進展したと考える。

また、『武道白石英』の内容を踏まえた明治期活字翻刻本や講談速記本についても調査を進め、①近世実録『武道白石英』が『今古実録 白石英雄記』として刊行され、その本文や挿絵を踏襲した『絵本高木武勇伝』『絵本高木英雄伝』が刊行されたこと、②『今古実録 白石英雄記』の内容を踏まえた講談速記本も存在し、その内容は『今古実録 白石英雄記』の細部を改変したものと、主人公の高木折右衛門の怪力無双ぶりを強調したものがあることを明らかにした。近世実録が近代日本にどのように受容されたのかを具体的に指摘した研究は少なく、近世実録が時代を超えて継承された近世文学であるという一例を示すことができた。

### (2) 『女武勇集』に関する成果

女性の武勇を題材とする『女武勇集』を発見し、その諸本と内容を明らかにした。その結果「女武勇」は、①行為の主体は武士階級の女性に限定される。②身分の高い女性は心がけ、身分の低い女性は具体的な行動が賞賛されており、身分によって「女武勇」と評価される行為が異なる。③「女武勇」の評価は男性に望まれる行動や心がけを体現した女性を評価するものであるという特徴を持つことが明らかになった。今まで「女武勇」という概念に注目した研究はなく、近世期の女性観や武勇観を考えるための新たな資料を提示できたと考える。

### (3) アヘン戦争物実録に関する成果

上記の研究と並行して、アヘン戦争を題材とした『通俗漢＝（口＋英）軍談』を入手することができた。そこで、近世実録作者がアヘン戦争という歴史的な大事件をどのように理解しようとしたのかを分析した。分析を通じて、本作が斎藤竹堂『鴉片始末』を素材にした可能性を指摘し、清皇帝とその配下に関する脚色を施すことによって、清王朝の敗北に重きを置いた物語を創出したと評価した。作品内にアヘン戦争に従軍した人物たちの武勇伝はほとんど含まれていないことから、国外かつ同時代の出来事を題材とする場合、武勇伝が形成されにくいのではないかと考えられた。この点は今後も検討が必要である。

以上、(1)～(3)のいずれも今まで先行研究がほとんどなかった近世実録作品を対象とした研究成果であり、本研究によって近世実録の基礎研究の進展に貢献できたと考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 荻原大地	4. 巻 20
2. 論文標題 実録写本『通俗漢＝（口＋英）軍談』について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 雅俗	6. 最初と最後の頁 70-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 荻原大地	4. 巻 45
2. 論文標題 高木折右衛門物実録『武道白石英』とその成長	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 愛知淑徳大学国語国文	6. 最初と最後の頁 43-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 荻原大地	4. 巻 103
2. 論文標題 「女武勇」とその類型 『女武勇集』の一群について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 近世文芸 研究と評論	6. 最初と最後の頁 183-191
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 荻原大地
2. 発表標題 慶安太平記物実録の系統 付・読本『南朝外史武勇伝』との関係
3. 学会等名 東海近世文学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 萩原大地
2. 発表標題 「女武勇」とその類型 ～『女武勇集』群を例にして～
3. 学会等名 東海近世文学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------